籠（てばこ）乃底

幡玄春著

ヤ 9
1142

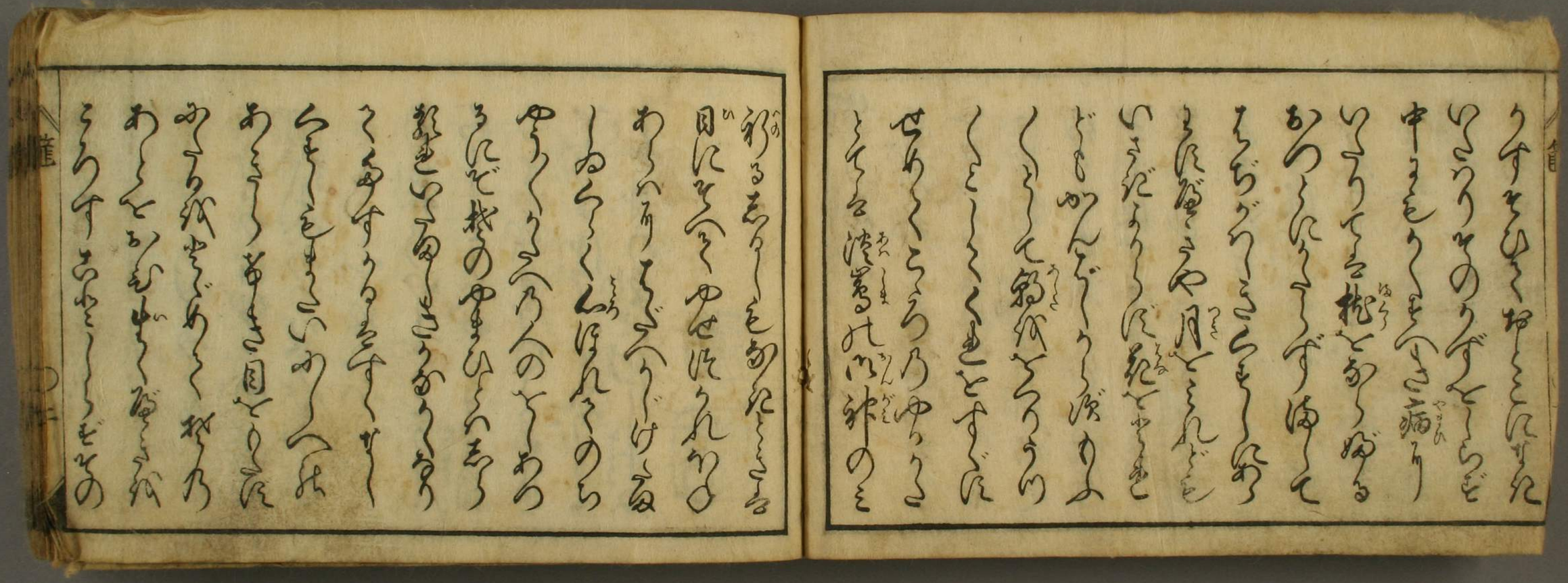
一さいのいたるまでこゝろ

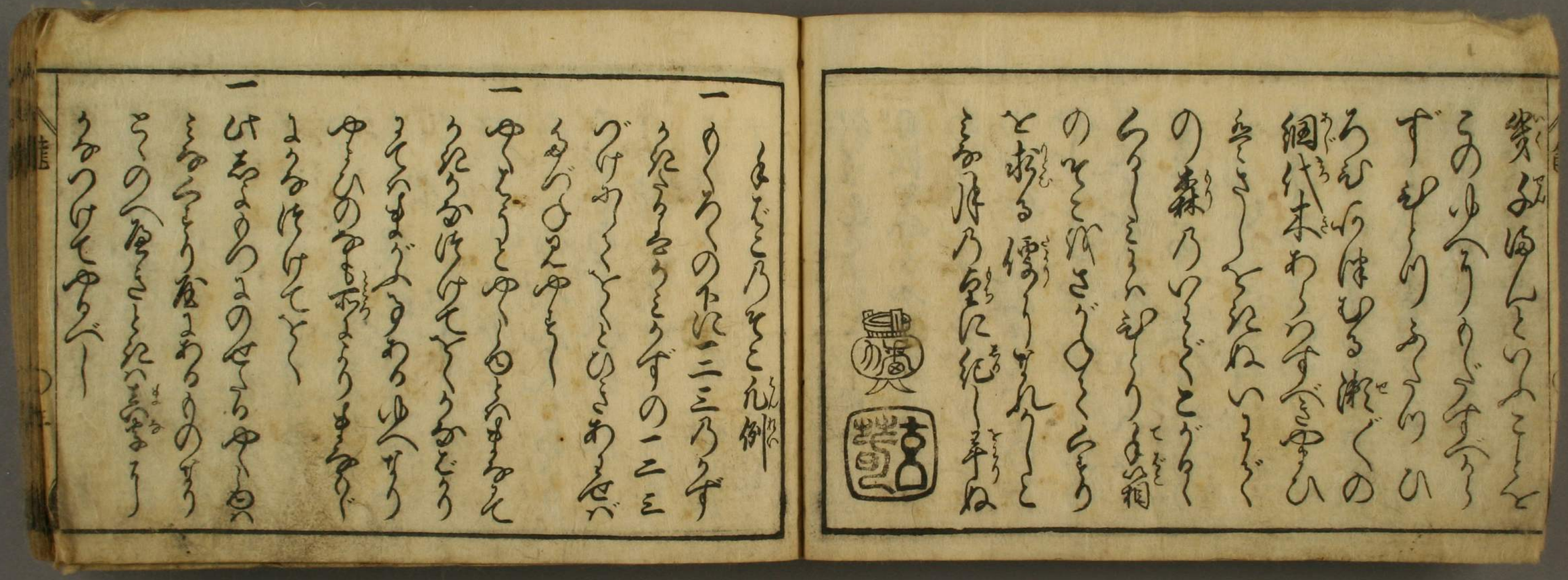
内閣文庫

T9
1142

龍乃序

寅乃年さくらのやま
ゝひらぬる事ありて
九重ぬみ吉野の四海を
作りしあづまぢ八間乃
さまにすゝめ
ゝむ出ゝ新り関中独
及るゝんと月ゝ
すゝに白楽天ら詩よいる
も人うまれて婦人となる
事ありも百乃者果他
人ゝまゝと身のんよ海色
ざらゝべいうぐぜんやまひさ





まだこと乃そと元例

一 りくの下に二三乃うず
えこうこうこうずの一二三
づけ乃くとひさあるべ
ゆくとゆくゆくゆくゆくゆく
一 ゆくとゆくゆくゆくゆくゆく
うえうかけてそうかどう
そくまづくうあるゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆく
よるけてそく
一 ひとよのつよのせうゆく
まるくうりあるのうり
そくのくあさくえいまるう
うのつけてゆうべ

一こらへゆうとつけぬらとうん
大うこぜんゆ
ゆなこうこ
絡んごろのう
りらぼつけ
わひごう
まうふの
てうぐう
ゆへまい
一らうんん
てそのう
いゆのこ
こうこう
すうゆて

ふみくくくかゆべくゆさ
わうてきうろあうの
うごごちゆごうれゆさ
うべうとくべ
一ひちよろうらゆろうさ
とのすぼさくさうろう
まべうび絡んごろうゆへ
らうとううわたくべうこう
身のうんうゆたもうべ
一こばうるびひまごさく
うすひちよろうこうさし
そもあうざんだうひいび
とうけべうすぐうれうわき
ゆうらゆ初まとうあく

一 ものゝ
一 むしをあつる法門わるゝ事 同
一 月みの蛤ぐろうる事 同 けのす 八
一 まあ入しぬん門をんどろる事 十
一 もぐるゝびよ無いつる事 十二
一 法門のうちひめるる事 十三
一 同 ちれいつる事 同
一 同 めうれんどろひる事 同
一 同 ちうめる事 西
一 同 ちわる事 同
一 同蛇のごとくあるいつる 同
一 法門ちけりの事 十五
一 法門の内うぐひる事 十六
一 同 ちれいつる事 十三

うたをすぐ
一 ものゝうたをぬきすと
うたのすゝいまのうと
うたわるまるとちゆゝ
とうにしるをゝうと
どもへとひでたるまく
たうほうみをせよ
うゝを
おりゝのゝ

一 [illegible]門とれいてきこらざるの事 十四
一 同とれ小ぶんしげきの事 十四
一 同とれ大小べん止まるの事 十四
一 同とるきこまりうるめきの事 十五
一 同さゝのぶろの事 十五
一 同ずびりの事 十六
一 同ゆるくゆきこまるの事 十六
一 同かぜのようす 十七
一 こしけのまの事 十七
一 つまんびゆう血の小便とまるの事 十九
一 ゆあたちぶるゆきひの事 十九
一 月ものいたのようすの事 三十
一 月水つゞかずりゆんの乃
一 うちへひきたるの事 三十一
一 けんようのまの事 三十三
一 ちとうすのの事 三十五
一 ゆりとういづるの事 三十六
一 らくのぶるいひむの事 三十七
一 らくれみんこうしぶるこの事 三十八
一 ちらのまの事
一 らくのみん大ぶん血とらぶす
一 さんり血小べん血の事 四十八
一 同ちづるこるすの事 五十
一 らくれこんに月のこるの事 五十一
一 同ちゝりくまの事 五十一
一 こゝぬゆるゆるの事 五十二
一 つんぶんこるのの事 五十二
一 ちかむりゆりまの事 五十六

一つるんざんふだんつまりする　五十七
一同さとうする事　五十七
一さんごうぶりする　五十八
一同法門くんいする事　六十四
一同こはぜいづる事　六十四
一同めくぜんそ法門うりそ
ほそのいぐいする　六十五
一同じぶんろつもる事　六十六
一同せうべんつまりする　六十七
一同血のふだんとる事　六十七
一同小ぶんりする事　六十七
一同ちぬさのひいする　六十七
一同ぜんそくの事　六十八
一同らんさとる事　六十八

一同しゆうさする事　六十九
一ちほそれる事　七十
一ちそれるのする　七十
一ちもめさけいする　七十
一ちごちにひつる　七十
一めうぐんの事　七十一
一くぬぶる事　七十二
一くみじうする　七十二
一くあうさる事　七十二
一ちぐろ事　七十二
一ほのつる事　七十二
一うかいする　七十二
一あぜぼの事　七十四
一わさぐろする　七十五
一ほくろめる事　七十五
一いがぬる事　七十八

ほだごと乃ものそと
○女こうまれて法門わろ事
同月水とゞめそろる事
一ひとあ乃ものまれて法門とゞ
うすうれものりてくわろす
わゝどせにのゝ所をざゝ成
ゆけゝく法門とそろゝくあ
ゝりわゝべしゝとのあゝろ
ゝ乃ものあゝ○石庚申
ゝまようふゝりつけてゝ今の
いゝどいへ貝ゞゝとゆゝろあゝ
ゝくせんぎゝそゆゝろいゝ
とりゝむべゝし
女十位さのゝなれ月れゝろ

のなり。むかしあんらくあまで
十二三ばかりとをあり。ふねど
もの七八まぐらあり。
まづ十ばかりたちまちくれた
のなり。そのところをすべ。
やがてくものやくとろべ。をを
つぶとうなりたるものとは申
ぐらへ。ぐすりのぞと。
うじみくもやそまく
ひとをべ。ありひげけ
なくろとをたくかどろ
をてやまひとかろかどろくは
へたつまくまるどうり
うけとなるらどあて月の米

をたひうすあ
く桃のをとろがごくり
なるものなりとやくまとつけ
て月のるりあんそのんを
とせまいひうすべどあ
ようとよまぐ月のうち
大切よ海のりべたくかろ
くとをまくのりは
鬼ようがるりあり半たど
とほまでしまとなりつく
ろくろつをとりもろ
よまのあのごとどりかく
うすむすんくろくまを
となれありとありつと

すんれんのようひろこしなうん
ちくもつよ堂とつけく一えの
のうきはしこのひふくろのの
一えのうぐはそぐうそうぢきひき
うんぶわくめうこうあさうくあのう
ひぐきくぐむくこうちんきを
すきたいうたこをびうふぐこと
めくこぐぬいうくとのくうぐ
うすくぐくちうすぐうくすぐうくあ
うこうぐうりうこうつうふうこうあう
あのやたがうむちあ武雪や
こわどめすうきはちくく平乃
温盛わどんくけうき人へあうま
うぐどもはひちあうんまいうん

ぬんはうんのうたはいまとうふう
まうこうあのうくわう也温うう
いうきのうんすうぐうわうぐまうぐへ
くまでのくこうたあひはう平
うんわうれだあわうこうとあ武
こくなうこうあふくうあけは
ぐうはへうはうけんこうくか
うひはうべくいうぐまうはわうこ
もれうくうむなうちくくの
あげうきあうこのうくうこうひ
はうくうすぐたふうぐうこへ
うくず今のあ使へぐはうくう
うくねへまれなうくうこへはうの
の西はいうぐくうはなうこのあ

[illegible]一代
[illegible]
[illegible]
[illegible]

△乾薑　おろしてふすべ　さゝげ

△麝香　やうとけてうちゝん

みくさをつくとをべしつく

をんじするものなり

△辰砂　をりてあるをすべひ二ゝ

ゆをよりて

右七味うるひまをあつく

をつむをつじわどひぐをんじどを

ふをつまりつて

○よめ入て陰門をんじいをを血の

一　よめ入て陰門をんじいをを血の

をゝをあをいちをゝ　五倍子

をゝをふをいをひををゝへ

血ををぐをゝ

○補中益氣湯　氣湯を見べしよめへ

をゝをををべををゝををゝぜんやく

つけをををりををををたををゝ

ぜををををのをををををををを

をゝををぐをゝをををををををを

をのをををををををををををを

○補中益氣湯　一さのをの

をををををををををををををを

をををををををををををををを

をををををををををををををを

をををををををををををををを

をををををををををををををを

黄蓍　人参　白朮

當歸　陳皮　柴胡

雜麻 附り草 三ノ

右八ツのうちけわるき也一ツ目ハ
しもつけ草 ちくめ草 ちんぶん
ゐ一ツ目ハ一ツ目ハ ちんぶん
二ツ目ハ ちんぶん
見べし 人参 なくハ沙参を
もちゆべし ふくろ草 色
なくハ附子 肉桂 ちくハ
見べし

○海ぶどう びよ 血ぐすり
一 かゝと海ぶどう びよ 血ぐすり
とあり そのほか ほやとこは
さけくさ まぶつ びのぐさと
なるかぶとくり ぬるあつ

なるさねよつ ゆむろ ありふ
ちらハ 法門の 中へ とと
とぶ 猶中 益気湯と 用
なるべし のうの くびれ
法門のうち ちひ ゆるず
一 ゐん門のうち 法ひよ むへ
ちとあり さあを 丁ふ ちと
野ゐ ちとねよ 法ゆむ
なりて ちハ さと ちんとべし
法門 ちれ ゆむ
一 ゐんとれ ゆむ 四物湯よ
柴胡 山梔子 牡丹皮
龍膽 ちと
ぶし 大蒜 ちと せんぶ ちと

ゆん門とわるるぬべし　さいごに
陰ゝのうちにてもむにてうしよ
ふぐんよりうまくとれいてむと
とあり　四物湯よ　防風
藁本　きりてつくりぜんぜんぬべし
陰門ゆうにてもとうにてもうつ　痛
一ゆん門ゆうにてもとうにてもむよ
四物湯　牡丹皮　天花粉
沢瀉　柴胡　きりてつくりぜんぜんぬべし
四物湯　てうしのうちにて
當飯　川芎　白芍茉
熟地黄　ひろうまるうとうてうしよ
右はひろうごとくぜんぜんぬべ
みんうくぜんぜんぬべし

○陰門のうちにてうしよ
陰門のうちにてうしよ　蛇床子
明礬ぜんぜんぬべし　明礬いちの
陰門のうちにてうしよ　明礬いちの
きくみうくうしよ
○陰つうくうしよ
一陰つうくうしよ　ものみにてあるう
ちうくうしよ　ぬべのう
わるうくうしよ　ぬべのう
うにてもうつくうしよ　陰門つうくうしよ
だうくうしよ　のうくうしよ
くとおつるうくうしよ
うつうくうしよ　ありうくうや
うにてもうつくうしよ　ぬべし

△陰ツの中うらうらうのごく
なる物いぞいてひまー
一のんのんろ中ようらうらかうろ
ごくなる物いぐぐはくいてを
ふだんちぶるるあり紙ようを
ひろまでまで補中益気湯と
二ぬくつのひべーどんうさん
龍膽瀉肝湯一ふくのひぶー
はけうもうう藜蘆膏とべ
うらつべーー補中益気湯を
まへりわるを
○
龍膽瀉肝湯　一さのっん
ぐうふだんちぶりてを法れ
ぬくぬつうーまひつうーを

ようーするうちうちなり
龍膽　澤瀉　車前子
木通　生地黄　當飯尾
山梔子　黄芩
耳草　灯心
右うけわるをせつひろごくせんで
用ゐべー
○
藜蘆膏　一さの法門ろうさ
ものあうー
藜芦　又名ハ黎蘆ト云ふ
ぬろーーのーーろあぐうそ煉
わるをかうやけぐくれてをむ
ところへぐつうとはをべー
まの日はけるあべーのーろ

わづらひくいまんとくもうし

△陰つるけの事

陰つるけの中うまとうけなど

のごとくもこのみとうれとさ

のゆうなる酒ちうへ下ちと

こりふくれいてむことあり陰囊

とうなるもの乃猶中益気湯

より山梔子　茯苓　車前子　青皮

黄芩と共に煎じ用ひべし

膏うゝ大うとうの物尸

飯脾湯より山梔子　茯苓　川芎

三いろと共に煎じ用ひべし

○飯脾湯　一ぞいの乃ふそくうる

ものこの作ときなぬくのゆめ

とうくあうろうつきむやうさぞ

ふうれくとなうはうすも

てそ物あるうる弱つきぞ

らうようれうもうなうつく

物ざあぐらうそんむにゝ

黄芪　人参　白朮

茯苓　當飯　酸棗仁

龍眼肉　遠志　木香

耳州

右十いろうぐすりなつめ少分

入ぜんじ用人参ぐ物参りよ

ともうゝつくずず

陰門の中にうちもりまき
一ゆんの中ふうぐひ〜わさび
ゐ〜まむつ〜くちゆひこと
ゐうたのすろかるるすゆ
ぐんをべうぐたまの四物湯よ
黄連　龍膽　木通
石菖蒲　ロつろつをとうくへ
ゐゐべ〜えそわひぐそうてた
そのわ人銀杏散どさ〜ちむべ
しけゆまひうきのそぐほりか
いづるはあようて一〜はわる
ゆまむなうわるひへあこれ
とひそうむまこうゆまへ
とあんぐねぐとんようるゆど

陰門乃うちるく
ろくぐんよわるものるきの
むぐ〜そぐひくよ絡つど
さむあぐらうからうわく
ゆそるぐゆせあろへらまの
よるうてちすうのかうて
四物湯二三十ぶくのこうゆさ
ゆまぐどんどくゆく逍遥散と

蘆會丸とあるを白めべし
わるひらもうさうこうまへ
のごくをとりまぐるとべし
すうるうるすうとをうるもく
をそをだうるずゆまひあこ
をゆをうるうん道遠散白べし
わるひらもうり　陰門のむし

○

とをうすわるむをうけうり
苦辛　蘆霊仙　蛇床子
狼毒　當飯尾
鶴虱

右六いろうけわるを三合入
二ぐうにせんぐさをうをへあこ
まつらもうるゆをそ陰門と

むしをうるたをうく
わるゆゆむのうたをそ陰門乃
をうをもうをうをふ
ひうらふくをわるをふぐをそをうら
ぐうをそ銀杏散をさうとみ
をべしまのわうをうどぐぐ
わるひうをうさうひべし

○

銀杏散　陰門乃むうとう
をうぐをうをうを
杏仁をうのうちをうをひ
をうとをうとのまをうとうを
をんをそをうをぐとまふ
をうこにする
水銀　硫黄ひうまぐをうを

雄黄

輕粉

○遊遠散

當歸　白芍藥　白茯苓

白朮　柴胡

耳草
たかうろしゝ
くすぐり
○芦薈丸 陰門のもの
とのこらとり
芦薈。つぐ
ぞろぼらとり
ぬりうさ
りつぐ
わぬ
やとつけ
けそ
黄連。こぐ

胡黄連
鶴虱
梅莫仁。
雷丸。
青皮。
麝香。

すりあて
水香。そのまゝこなにふるべし
こたるまあり
たゞれひろくあるひまぜるなら
のけうそあづきこがねぐん
じそすりたるもの乃ちかめ丸
ゆそ沙糖入つようで一日よ
ニどにのむべしせんゆぐん
やまゐぬぐひらぐひよ用へし
陰門ちれいこまをもむす
一 ゆんのちまたれてをよく
のちぐつまりのびてたと
あり一りぐこぼん 乳香あり
にきまぜりちろごくあて

しれうとうへけりのべし
弱さうるあるかうさう
さんごに陰のんとれいむ
もこのちまうこう
陰門ちれ痛らぢざる事
一 ゆんのちれいこぐつうと
ちちとあるさうぢざるこあと
まの遺竅敬うとれへ
ひさてもちちあるさふさぐ
ぬうまの補中益気湯
よ山梔子 牡丹皮 二りと
ちとぢくうこ目ゆべし
ゆんにあるかぐんぐげる事

一ゆんとうどくとてせうべん
さいくゝどくとゆくとゝゆくとゝ
ゝゝゆんうどくた
のびゝゝとけうまへの
逍遥散ゝ　柴胡
山梔子　車前子
ゝゝゝ少べし
ゝゝ大小便つまりす
一ゆんとゝゝゝゝ大小便
ゝゝゝゝゝゝすること
ゝゝゝゝゝゝゆひ
ゝゝ
陳皮　枳實　二ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

あらうるゆべし
こげとらぐ　そのわと
ひりはさいるさひしくゆもへの
飯脾湯　柴胡
山梔子　牡丹皮　芍薬
右四ツ　こまかにつくりて耳草
ふりかけてせんじ用ゆべし
まの蛇床子　明礬のせん
じゆうにくわゆべし
一　ゆんのさのもの事
ゆんのさゆねぐくのび
出ることわり　茄子根を
らゆさいくるぬれ池
うてせうほどうくとも

さるゆびのをたゆびのを
さいてゆんのうちへ
さくとみとべしもいち
らとうとうゆべし
ゆんかびの事
一　ゆんのくるくかり
ゆまこれびくもへぶり
つまとれさるうゆぜん
さかうかすむらへ
○穿山甲のうちへ
らぐたやうくそ彩
うてうくゆを酒そ
さいくゆべしたのくる

[illegible]穿[illegible]甲[illegible]たのうの
うちこそ　ひぢるべ
ひぢりめこのうちこそ
めんりすてゆまたす
一　めんのうちこそいたで
ぶくくとかうかるこの
ぢくゆまくさうり
陰吹[illegible]ゆまむすり
○ことりけのかたちめぢり
わぶくとくわひるくく
めのくのひぢめん
じめのちけてわぢ
ゆくくるこのひべし

ことりくくりあくくしし
てのこめくしくくるる
このかたくくりすす一二
くもものめゆまひふだん
くくくくりてすくる
めんりかりの事
一　さいくぐゆずのくく
もめんりかるくし
わくくゆまくひすり
粧毛[illegible]とくくゆさくく
くくぢいりくくるつく
二日三枚さくくみくく
ぢくぐぐんぐぢけてくゆ

とうちぎすべし

うけのまま

一うけいさぶぐくあらあら
まわりもろもろあり
きいらいらあらいらあらあら
わりもげもしあげさしあくさし
ちうもとしいづもも
九蒼湯とせんぶ目ひ地榆
散とまじ目ゆべし

○

九蒼湯 一さいのうけと
ちうもとしたちうかう
當歸 川芎 熟地黄
白芍薬 白朮 白茯苓

澤瀉 猪苓 ハいろいろ
肉桂 ちうもとしたちうもん目四

○

地榆散 一さいのうけぐ
ひうくくまてう

地榆 ちうもとしたちうかう
ちうくくせんぶ目べしこと
人のうけひひくちうかうる
せうちうくくいいのちうとう
きぐらふうかうもあり
ちうくくちうかうもあり
きるぐくちうちうちうふう
くゆすれうていしわよ
うぶべしひうとう二いろと

のこすもかとぶしていと
ひさしくつとりのれごと
さうさうとうとうとれを八味湯と
月四ぶしいまさとれくのの
補中益気湯月四ぶし

○八味湯　一さいこのやひ
さうちかぐらうんびゆう
こうつさめんへ男と
稲ろうりかうりかたろう
さむつうさいこ

熟地黄　山茱萸　白茯苓
沢瀉　山薬　三ようりとて
牡丹皮一分　附子　肉桂

たハハうろすんで月四ぶし
さうじてそ女こうこうトの
ゆまひかうらかとゆうう
こうぬけいしやのりちゆま
ろうとれた月四ぶしめいの業
稲りやくめくそ八味丸と
八味丸と補中益気湯ゑ月四ル
とうとれ男女とりふさよらう
とうしあのりつくのたうま
ろうづくひとうくすううと
ちりゆぶ風しいばつうかさい
しやうあうんへうもんへよ
てううちすべし

つんびゆう無小べんをろう

一ひさしくつもんぜゆうとうづひ
無乃ぶんんそのあとう
ちくいてこゝ引りぐんるーむ
こゝろういしやらくとれ
どもらとりきうぬりのう
ひびゆうんいうほどもえてろふ
せうんのいしやるとてこゝろう
なしまんの八陳湯こゝろ
こゝ

ゆめよちぐろゆうひ武事

一おつとぐんぐへもうぐーまこゝ
ゆりあうなうわるひいこゝわづへ

なぐーてひさしくもとう紙こゝ
してんうよそのことゆゆ〜ぬ
こゝこゝゆめうこゝなくこれこゝまちぬこゝ
こゝろうこゝもいよくちこゝろこゝ
むこゝひこゝこゝみこゝこゝうこゝ
て月ゆうこゝもうこゝゆこゝう
うこゝりてこれこゝうこゝこゝ
つぐゆこれこゝいうりこゝこゝう
ぬこゝうくこゝんこゝこゝぐこゝく
いこゝひのこゝこゝゆこゝこゝこゝこゝ
月四ぐーこゝ二ぬこゝゆめぐんば
ゆりこゝねこゝこれこゝうこゝうこゝ
しゆこゝろちぐこゝへちりこゝく

[illegible]

大[illegible]

その女[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○茯神湯　女ゆめのうちふ

[illegible]

[illegible]

茯神　羌活　蔓荊子

防風　薏苡仁　石菖蒲

黄芪　五味子　麥門冬

黄芩　牛蒡子　又重

右十二ゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

のうりの[illegible]　除夫散と

[illegible]

○除夫散　風ろうまう
ちりこくりうげこくすろ
とうすうらとう
芫花根　さざみいりきみろ
してちろし　きふ　桃仁きふ
のやんでちろしそ一月に一どづ
月ぐべし　風ろどこべうとう
やめよ
風ろうきのうらと
かすこと
一つ○すうろやまひわう月ろ
とうろ時そのとうろしを
ぐらまらいぬ種ときろ○

むじかうびうすすのうこ
ちこりそのんようびうぶう
ありこどうぐぶうそのうた
そのまうはうろうきぬまく
のんぐとぬうたく　没薬と粉
やうくきんでうそ月ぐへ
しそのまうこうし
風ろつうかうのんぐの
中ぐうきつうきう
一
風水ぢんとかうふうつけ　絹
ろうこうぢろうのんのん
のうらんひうぢうたうこふぶん
いうぐやうきうくどとのうこ
ろうんとうきあくんぶうぐうこうん

のごとくなるものなりこのさ
まをよめるこころにて
こころをうるはしずそのへと
ゝこゝろをとゝのへくらしとと
のひだ〳〵ゆきひへ月めら
ゝとれんよりあらんあるて或へ
うあるをわるひるなどろき
まをつゝたゞあたれわて
ゝどろべきこゝもとゝほり
てなるものあるまへまいへ
ごく月めらけれらへあと
かんなけりくつゝむべ〳〵
ゝるのんものらのいゝうつけ
ゝうちつゝひとめんの中へ

ひきつゝとゞめめてなりゝく
ごつてんてゝらゝりのむべ〳〵
○新鼠散月めごろり
ゝゝゝとゝるゝとゝゝ

新鼠　ゝゝてそのまめて
ゝれ移づゝれすなりれき
まゝゝれつゝみものうへゝ
ゝゝゝみごろめてあさて
まめかゝゝうてその中へへゝる
そのうへ元葉の末ゝたゝごめ
一日一枚火ゝゝたゝらゆゝれせ
ゝゝごゝごゝゝゝゝゝゝかゝ
移づゝゝゝめ〳〵桂心の

[illegible]

けんさうの事

一けんさうにあつのこさうかすかすのあたたかのあたたかのむぐてもぐひくよりてまぐのちちいどさうちうぬけ大ぶんをもかひつけてそのわかかいづちおそんしたゆまひうまづ清血湯とはみやくのそのちちうちやとものをけんさういぐちうといひこさうをしてこさうをまいの目つまびたうるいやくとのむぐ〜げちうをもひちうとつかうやくとつけべしちぢあちうおちうまで國老膏を用べしもちうくちうず

○清血湯 けんさういぐ

ゑのさうこさうちやくのむべし

川芎 當歸 赤芍薬

牡丹皮 生地黄 天花粉

耳中節　右七ツ
沢瀉　三ツ
大黄

右九ツ　ゆうけわうをうまぜて
三文ほどうけ　ゑまく一ふくと
灯心十ぞづつ　ゆみ目めべし

○國老膏　けんろうこうあるを
のらまそんを用ゆべし
仕合うけまで二どづつ
のうそいのふすわり
粉草　拾文　ふんさうのすりほど
ふくしやうとうかうさうとふんさう
こつかり　ゆりたねとうを
ようせうはうとかりて

けうんぶう十ぶをひて三ぶ
ほどこしてぬきとうろ時
ぬるまをすびそわづうん
うすうくうたくほさらを
うんのうづしてわづう一
ぷんのふるにるうこいく
ぶびもわづくそのちりろ
くそそせみのむべしまき
わんぶるふくわうわんく
とうたてうそうをべしわつを
なくいぢたよすゆぶくわて
ゑるまぐすべし一さのうう
ちうたきうほどなるうあう
ぢゆ今のげふをいるぶる

おとをくしゝ

ぢちくだすのまゝ

一大ぶんぐすりのまゝ
ぢかりいがぢまあぢあぢ
ちゝぢからぢるぢたその
ぐずあまこゆへてぐくを
のをどきぐんとぐあうのく
のちゝひあうひかうこれぐん
ぬちゝるのかうさぐく
つあうぢわれぐとせぬかど
むつくくなる 猪中益気湯
附子 肉桂 ゆとてらへ
いつまでもあぐくちぐある

みんあくとしたてあいひとをあへ
しかちくまあまおうく
ふふちびるのかうとちて
ちぐちくぐたよすあぐ
ちのつあうぢかぐこたいす
ちうとちくあぐちるすなん
まちちうぐんとぬぐちの
ぬちうたちのうたわかぐたう
ちぬぐくくのちちを
いつ清をあちくりのかう
附子とこたちくたぐたくく
ぬうせたりんのあつふと
ちのわるれうようけちのうる
あいむとすあぐくせんやくを

補中益気湯より附子 肉桂
加てくるしのまさるべし
あるいは五苓散
あるいは五苓散
加てよし

一ぶりくるぶしの
のちあつくなりて
さんのごとくにいたるもあり
くるぶしのあたりを
いたみあるものゆえ
補中益氣湯
五倍子 百草霜 ゆるかぐて
敷にて洗うべし

のちあつくぬるべし
蒲黄とぬるのしるしあり
洗うつけべし
はじめは日に四度
ぜんぶんにて

一洗わるいむしの事
ちいさきむしあり
洗つぶしあるべし
百日の
うちゆびにてはうべし
ものの月日のうちに
ところどころまでひろがる
日にくに肥えて
大なる
大凡八ぜんの内ごとにうみたち

ちいさくろ日のあつ日
あつむべしかくしてよ
ちひくゆどうろべうず
んうんてつひようのども
ものかう大ろうぞくんやう
ちくくれんもぐさうるの
さうの秋さうりうまれ
ろうりぬもさすさし
ひくくれさしめもひかろう
子のぬすこうまげかや
のどくりいもごさらべき
すかもこうどうずあくれ
だまのしぬものすうちくよ
のさるやこうあるすどく

いむべゆさこうろのみんこ
はうこうんんうごくのこ
つしむぶゆ七月こうのらい
あやこだらめくくこうむ
ぶくみんぐんこるのこるを
このぶもこうごぬくあるひ
ろここのまろこぶらこも
うつゆここやこぬのの
かうんこくけごあにから
ぶたやう一ひまぬ紙こ
こくこうのみんたろのらる
ちすこごこんこうたをあぬん
霧こうるかここここここ
時いめ水ふあこ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
男女とのふげんと成む
[illegible]
[illegible]

一月[illegible]すたりの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
三月[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぺらぺらまちをうさんすると
わりめをらさうぐとらえれば
だつゆびのぐとうむふと食
すもだうこにわぐるぐとうむ
うだとらてきいらとと
うむらあれをうくとんでせあ
とうむすめとらへそのおわん
らんうとこらとこれけかう
わまこぐだらわりいしわよ
うくしいこれの女からし
ぬぐうとさぬぐくりぐとて
こらうさんくそらるる
ゆうものぶにわるぐうえ
ぶし我のこれ血とゆぐるふ

こうえすうゆまひとるうて
十人ぐみ人なるんぐとて
たものからうらのかの間
さんどりかぐうぐうりう
うくしゆさあぐらとゆこ
ゆぐくもうのけうらい
けぐんるたらまたこ
あずわくあとうて
ちうくもこぐうも
天こううこけゆる
まのゆこどその乎みむて
てとりねをげこすうものこ
うくぐうてんをべうとあぬ
ゆうもおろくゆんぐも

ゆゑをすむひとのあらんがぎ
りにたちぬすみ月のうち
とびをすることさぐそうの
あつてなりそのいつれを
むり神功皇后さん月
えりわることとらるとまれ
ひうどのぐのこれたちうり
こちらをしわがこれぬど
らをのみたらけらのあつど
えいかまこずやちぐらき
けうらくうちまでたちまを
あのすえおびとあれれば
ゆがくちづまうをたちあ
ひうんらんのらたちんどう

あとづけほんぐえんぐどう
ゆうろいまよ
のくふはこゆまれむうづ
ハまんぐうこうれをかう
ますのあるぐうたあ
りれだこそいうることびとし
代てのきたたたぐれなる
るゆ人今ゆやちづゆよ
ぐつうちあるのまく
むとするまにたうり
ひのうぐりれたおび
きりかあぐたうむひ
ほうあうぐうあぐく
つくしるうるきのち

のぞくにかうちんぐらうん
ぐんとうぐわせうのふく
らうのあんさとびすうらう
さんぐもひさしたあしらゆ
うあんぐうちんせびたのひ
ぶんとうきけがうみるそぐ
とゆゆあぐうのうちんと
ゆまぐたのいらねさびうと
ううどあむしめうすぐうさ
びうらのううはううたう
すかうりうちんぐうよう
ふうすあうたふうぐうん
ゆううしねゑうこぐ
へあまうされるとうめぐまとび

すのうかし　このふうと
さうじうのうちううどい百ゑ
百ゑうのうあくうめども
やうりもせびたひゆへまわぐ
とうるそんくのそん弥んる
ゆとくうひうのうとううべく
人いあびとそうそうそけん
ぐんあしそのくゆまれ
りのとうひゑうう弥ぐうあんび
ゆうりのうう　瘻懐耳抉敬
とゆゆべく　天和のくぐめうう
寛永ゑうこしたいうちぐ
わゆくみうけれうう懐妊ふい
あむとうゆゆどもあんぐんせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

香附子　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

懐妊の大黄魚とうでたまり

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

耳草 きとよみ

右六味煎じ用べし

血とめ用べし

かぶんてうるわう血熱なるうまん

の四物湯より山梔子と髪ぬけ

ろらろやきめて入せんじて

用べし

こしぢうわう血よ二ふあり

ちちてちてらぢろ脂漏と

てちてれのいてわぢらふの

ぢうつあうぢるぐわるど

よいわうるのむべしてち

いてるぐしてらぢと脂漏と

いてこんちとるぐわるど

みいしわたのむじそのうち

よわつぐたへらぐうろ

のちちろ血すり八物湯とじ

用べし

○八物湯 ちのみんのうち

ちのうしてるにぐとゆづり

血ゆたにふうしはうさの

きけつのちてびれふちたく

すりるつを

黄芪 人参 白朮

當歸 白芍 川芎

熟地黄 七りろて 耳艸 又重 ひ八ひろよ

阿膠　艾葉　うとぎらこんぜうが
ゝとへとんでゝ用べし　けん物
湯をつよくよいわりあらとと
ひすゝらぐひさうはひみを
黄芪ゐゝして白茯苓ありとん
ゝうしひやうしんとゝつまり
けんりゐ（黄芪）ひくゝうとり
まゝこいろとも入肉桂ゆと
らゝてゝ十全大補湯とて
一さいらびれのこゞゝたる
ふりゐらせうり
らうかんらづかゝふとみす
一らうんのうらたうとら

まゝこいろびりたゝとら
ゝゝすゞとひさらぐへ
ゐゝとゝりてゝのぐ
のら大まゝさに鼠ぐして
ゝうのうらとゝうぐすんぐう
のゝゐゐてゝひろたゝく
いゝゝてゝゝたゝうさうぐく
ゐもゝぐゐゐすうせうんゝく
ちづゐゝれすゝゝ砂仁と
いゝゝてゝうぐゝりぐゝの
ゝびゝゝりゝゝ用ぐし
ゝゝゆゝてもゝとれゝうぐう
ぞひゝりゝうらんのゐう

[illegible]
ひらたりと苓朮湯とをぐ
もらるべし

○苓朮湯　[illegible]
のもづひ[illegible]
[illegible]
ごはつれうすごく
[illegible]

黄苓　白朮　二ところをすぐ
[illegible]
[illegible]
一血[illegible]

[illegible]
[illegible]
ぐりうとそれ用ゐべし

[illegible]

一[illegible]
[illegible]
[illegible]
補中益気湯と
用ゐべし

[illegible]

一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
黄連[illegible]

とくせんで男めべしすきや
まいつまりとゆあよ
たらちめのうちのほら
さぐくのまづしひわんどを
るいしわにさのむべしたぐ
あしらべてとつあう
じ海ごしてきすとも原
するり

つまんぐんのらぬ中
ふりこびすりたとと
まんぐんとりさう

一ふんめんのうちめんうち我
つしとさくゆうじうし
分りら海めゆうきうん

あしんまうづしてうらみま
まうつびこうほうどるう
ふづうひとべうしずみとうむ
うたいあしてじりとふうじ
ぐいのようのみさうひ我
えうすぐしてその人とを
れしむうすさんぐすること
りうこうたずみとうじめく
ふふんしてあじこうろ
ぐそしぬべきめと
ものりうかそく
とうこうきうぐほうそぐ
そほんで無すどうゆ人
さんうまてむしくなう

のりわんどうふ
ぐゆとうふ　ぐゆとうふ
をとうのうちとうふ
いとむきぐりとうふ
さもういとうふ
こどぶとうふ
いとうどうふ
大うこいふだんじ
ありとうふ
ぬるかるべしのるずかさ
りとうべうどうふ
とうのうとうふ
わくとうのびとうふ
ぜらすりまべうどうふ

みんわうとうどうふ
いうりどうあうとうふ
こうりんとうふ
づくいうとうづ
そのうたいるむびとうふ
やもとうもうとうふ
芋飯湯とうどのうとうふ
ぬくとうべうちどうとうふ
そもとのぐうづくるあ
とひるゆづりそのひとあどひ
のちうちあさてるどうて
てあうとのぐうゆきいづる
りうらどうゆとうるれいが
ぐらんどゆとうるんらどひ

ゆきちごうんだあると
なげるまぶすうすりとてま
とうゆくうらとびとそのあ
をゆづるこたみづくもの風
ものかうぶうすうふた
いうづもうのかうびんそ
くびそんくらそすゆう
ゆきづうくそのうあうて
ゆうくたるくれるうくさう
さゆかうてたうくゆく
うあれかとうびくゆくまき
ゆくうんどうくうとうとみ
あんざいとうあうすぐく
ゆうくねるうくくく

そのうらゆうくゆうとうづく
ううくうそれ移ゆづくうむ
人くくしうくだたみゆす
あとすんどのうぬのうう
いさくくゆうあうくのゆ中そ
あんざんとすうのうの人どうう
かうそれくれそばうとに
うくてさうすうくとうべくひと
ますくくけびもんなうう
もなんざんすうぶうすぶ
ううにいくくむうたいあ
いづくてさうづくうるづく
ますうとうくせうくく
いうあづゆあうくてうる

とまるとゆづりぬうち
みつきあがりてとうむ
えそうぐうとうてんをべしまる
こらへてもんぜんとすろうう
いうれんぐらほうとうるぐぬ
さえうえとてたりとて
わとしけてうひうすれ
めれふるだくんとちづめるる
とりてらきとうとこでだうのと
ゐる血とうくちろしゆづけ
すどすくうらてそろと
ちらゆうとうべきらく
破とうさとるのれみを破と
ぬうすうぐうひたまさ

とびつくしめうすべうだ
ゐうらわうひてとどうり
ひつくまひとうりうしゆうと
りうこけとゐうされぐる
ゐさくとびしめくうぐを
ゐりわびやひどまぐゆる
もりてわうきとうてこのむ
うわくだるうほどゆうと
さすべくどくむしゆうふ
ちゐさぐうのうとむ
しゆうくるゆくうく
血くわるうのうもとどふ
ちうけどのたふのもろ
ことふうとうさんぐのうなう

のひべらずぜむしのうち
わらびふくこれのそのら
こがすべし

ちかひのうち事

一ちかむしのうちすわらべのど
のさとひらのむぎ
まこそこそこそこそこそこく
ゆべ蝙蝠ひらつさくと
ぜんぜのひべらわらろ
ちちうちうちうちうちうちと
ちちうちうちうちうちうちと
ちちうちうちうちうちうちと

つんぞんふぐんぐんぐんぐんぐ
一つんぞんふぐんぐんつまり乱れ
とすうちうちうちうちうちうぶ小べんこう
へぶとこしこしむかりいしわま
うちうちうちうちうちうちうちうちうちうち
とあとひさしたるもせめさ
つあうやうれわれこむとう
さうちうにひさうげつうつう
ちちうちうちうほどにすべしえ
そううこれれこそ
ぜうべんひづうのう

つんぞんさどう事人事
一つんぞんさらしめとつめ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

死絲とりたる
[illegible]

○[illegible]

巴豆 十二はたの 萆麻子つぶれ
[illegible]
麝香 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

死絲とりたる
[illegible]

○芎飯湯 [illegible]
くの血のうづ[illegible]

川芎 當飯 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そんでいろうでもらうと
いうことをとらひしめめ
ことをひらひらうまつつけ
ーーぜんでさけうとさ
ものをそんぜひらこゆ
てあやこことにうでかうえん
じうこをたゆらまつとうて
うーひかうーさのらのいら
みーーゆーーざうらうこ

えんどうのうれ事

一えんどゆまひかくでらうと
のひべうーーんどんいまと

ろうかけつうこをうらうと
のまーひべめぐうーず芋飯湯
ヨ壹後一ーらうやーーのむ
ゆーー見ーとうーあとむとと
ーーひーとそうとうーーゆーべー
わーとのーーすうかうれうーよ
ゆーーうーーゆうにむひーう
ほーのーーーーーさうなうさ
ずーー三月のうらくぬーく
みとべーーうのーうーーで
わまりゆうーーうーーーーーの
こーーーーーーーあーーり
すーーーーーーーーーーーーーー
うーーーーーーーーーーーーーー

うぶすなのこと
ちんぜいのこと
そうりょうぶんのこと
そうりょうのこと
ぶいおそうやどうこうゆん
三七歩すぎたまべしどゆう
ぶいの三十日のひだりきたく
すぐきぬしべみ十日のひべし
うこあしふまあみ十日のひだりこと
あしひぶあずいそ名の風と
ひうまづひのけれど身をも
うぶんひぶいうきすたしぬの
ゆうあひあんどゆうそうろ

ともいうすくうゆうねめ
けりり七歩ちすだ身をくく
こうへうづくべわつうさゆふふ
ぬぶひとひうしぶりめくしぶり
てみとそうくとねぐうぶ
つくくうぶのうきうろべしず
きんどたぶあずいてちみろ
人いうぶぐいうずうきく
見てう中ひあうんあうしん
ぶとふうりよ白鷺のうふぐが
妻女十二月べ目ようねえん
ゆうもうんうしぶどたうゆ
ぶあうずいつくいまーあろ
みトあとうどんてうゆ

すうすうとびの大そうの数
わらはまねとてむらさんぐう
神乃とりゆうえんはげうなる
まぢゆあぐらうとわらうんうう
ろうやどたちとちとちいわ
どのゆうゆうあまねうふぐ
ともうんとうどむれどもり
ゆうう神のぐらあうりうん
いまいうるどあうとらけ
まどびひうくゆうぬうあ
きうくうくかとあうひすど
しけうちうちよりうすうさ
ひひううくく国の中をうり
うれどそのまうゆうとおうを

いどうらうげぬそのちわを
ゆうとうどたうのとうろうまく
ゆうえううびうくうよりうんをす
ぢうあうりうるううううる
いわうとうるうどうあうすどうあとうれよ
とうとうどうられうたどうもどび
ようくうくりうりうしのうとうど
ううれうゆうう二といどうと
うよりうれうるうどうくうふうう
うとうのけどんれうとれんれうど
うどうきううとうんいうるの目
うりうどうとうえうのあのうう
じゆうすべうゆまれあうれ
うくうどんうべういうもの目う

わくうてあくしやさけよりひ
ろまどもいもやくゆうもろる
あるあるまるこるすうどわまる
五十日乃うらうそうりべうだ
一しやうのうちうしものゆうひ
うねものかうらうう百日
うるうしひけまどもいまごたの
人をもくくわがらひうる
けどに五十日ゆうすうれん
そもあゆうきこわうべ
いあくのうくう百日まうべ
ゆうこうみそうりねこみく
うううとゆうとうくすうこと
むうくうたあうくうえんぐの

うすりうこ三日のうちかくし
ゆうくうぬべくとひうりそ
しそうどうの日ひうこうと
ゆうる四とひうそわうべく
ゆづゆもうくうもうくうもち
そうづうきちうあたなど孫
どうるいみものちの乃あ
よううくうぬうけうくうひ
ううくうくうんうすべくと
しるうくゆうくくくそうとゆう
いどすういうくうもわううち
うくひのゆるうどひりのうう七
郎もむうくうたうくうべくうう
七郎うどあうくうくうくうる

まぜさとうにてこねこ
ねまぜるべしらしらしら
なべとうづゆうとへし
らとりのわまたさうのよ
なづめじそにてはまそか
けんのぼうそうのん
一さんみうまずだうものん
一さんりうこうあ一さんむ
ゆりねらでこのかまあと
ねわぶげはめんろんとう
そばこうあそびわうう
百日のうちかくいむだし
らざねそできうかこ和んる
いひべらうのめんこうこんど

まぜはとうにてこねこ
ばすうもわづあうこと
すうのかまるそこうる
こうもゆうこうひすちいる
こうこんどゆうこうそう
ゆうかうのうめづれ
こうにわずあうるこく
そひべうづにわまうづえ
こうこうまわずあへ
りとへうり

えんどめんにてしるむす

一えんどめんにてしるむす
まへり　乳香ひとこづる

わらをもてうちたるもの
ゆづをさしけいるひとの五倍
の形をなしたるもの

さんごうの事

一さんごうの葉いでゝとちゆね
ゝ枳殼とちくせんぢうたか
げんようゆたるゆとひと
すべてさんごうあるこゝぢまてあ
ゆあるもすべてまへり
四物湯に龍骨とちくとへ
せんぢゆゆべゝるえのもも
いちわうんゝあるをちごく
えふまもあるものゆう

こはげうゆ
ゆゝとゝぢひろさのものそ
とりゝとちくをいたをて
わゝぢゝぬゝたのうちゝだ
ゆゝぢうゝたうゝず　まの
補中益氣湯に柴胡とう
大ぶゝうゝせんぢゆゆべゝ

さんごゆくせんそゆそうの
いそゝうゝむ事

一さんごゆん門の中ゝうとう
のゆゝさゆりあこゝをもをも
いゝぢすゝあにさうゆべゝる
みゝうゝいてむゝいせつゝる

ゆもひすりまぜつ失笑散と
ぼそぬくのこそのちゆそろ
ゆうふくさねそのひごろ
ねとうけうりほどそろくと
もげそのうゆひとすぶこう
ごくこうげわづかてゆん
そんのそばまでとりわげん
とたさそしゆうげんみろそ
わうあむもべく

○失笑散　さんを一さいもと
くのいうこけりくい
わくくにたくく

五霊脂　そのまくとくとろ

蒲黄　そのまくこうまでけき
右二ゆうくこぶそゆうゆ
のごくに弱うわを一どに
ゆもづくうげんせんゆかど
みそせんぐのひべく

生姜袋　しゆうぶこまけき
つぶく胡麻のわづを合り
はくこわを世ぶそいうこね
のゆくうよ入めんのそばへ
そうくとけむとべく
くあくびのうゆく
わくあむすべいうこく
くうそをくこ二日ぶむせど
くこ粗ゆうそも失笑

散毒白ひ芎藭湯とうひ用ひ

さんごと大ぼんけつのとき

一さんごと熱ねどいたい大ぼんをこぶ
ゆるくきりのけりとづりむ
すべうこぶ大ぼんつまりそなん
ぶせい　川芎　當歸　防風
枳殼　ひろうこ　ゑんご草
うけあるきせんぐのむだ
さうじてせうちんへゆくだうぶ
のんけうこぶひきむつりた
ゆまひとかうんとのけかる
にはりべし

西村上衛蔵書

さんぼ小ぼんけつまるとき

一さんご小ぼんけつまりこうこう
ちうしむこんかちそのゆへ
とうあ紙ぶうとけたつぶしち
みてぜにようんのわつこに
こそのうへはこうこよわど大ぎ
ゆいむとすあべしわつこれ
ぐそのまくせうべんぐりあり
それゆくこうとうとびとる
のいしやちずそこうす
りれかう

さんぼ小ぼんをこうすまき

一さんごとぼへとせうべんとりし

きくらふ（んしたくつうん
びゆうれんわうだ桑蟹蝟
わうり龍骨さくのまく粉
ゆうひ一どにさんばく
めのとうゆきそもべし
蘆ほ無とふ蒲んすうう

一さんごふんよ無とすうう牛膝
とゆけすとうまでのむべし

さんごちぬさのびむすう

一さんごけつのびりえちぬさか
そけづくのびてうれさうわうぞ
のうまでさうるすわうその
いさんゆくんうる匿大ぜうすう

ゆまひすう川芎當歸
大ぜべそすうほどくすんで
ひさ抱りもしべしかうふも
ひ二ゆうる百ゆほどで炎ぐち
ようらべそのうりとうぞせ
ちくもぬきべすべくとの
かうたうりすしゆうまで
けつゆうぢきべしゆうきゆき
ちぬさちぐまれどもうの
ぐくゆうずくすくすくせぐく
のびてわうだとうぐぬともう
つぬくかうる百ゆまんなうた
けけようつそくちぐまうる
くとうぐる百ゆとうすのべし

一さんごしけつのぼりていきすぎ
こぜんそくこゝろ大せつなり
麒麟血　没薬　こうぶん　うこん
ちゝこにしてもみつくさけと
ゝとこうぶんのそのむぶし
これをこうすゝ人参　ゝゝ
蘇木　こゝせんぐそゆもつく
用少べしぬうるゝいしやよ
ゝをべうずたらもちこゝを
ものなり

さんごらんこゝもつやま

一さんご血のほりてこらうべく

麒麟血にしてこゝ
ゝくこゝ用少べし

さんごしたこゝす事

一さんごのしたこゝいしゝ大こゝ
すすり調経散とあゝせく
用少べし

○調経散　月みつごこゝ
したこゝすゝ
當飯　赤芍薬　桂心　没薬　琥珀　耳艸　細辛　麝香　ゝゝ
ちハいゝこゝこゝもゝこゝて
みゝしけくゝゝこゝたゝ

げのしげりそのまたしたに
ちまきてまりゆべし
琥珀ちまきやまもりちまき
のべまきべし
桂心東京肉桂のうちまきの
かどあつくけずり中ぬた
ところすりうす
右さんどのやまひけうちぬく
ゆまでこしいわたのひべし
わつてぬたと海ぶどうつき
とまりすものすりひきへり
ちまきたところわかてうちぬた
ぬたとちのちまりやをうの
ちまりうかのちまりあぜば

またぐぬたでひたしたあのあ
のするものすり
ちかそくちまき
一ちかそくちぬやちまりの
大 黄菜みと 當飯ゆとまり
強ぐのちまりまて入せんで
ひさくのむべちまりどもと
すりまかそまぜぬんもべ
ちくれのまき
一ちくれいちまりたちまりひと息
笑ちまりまきまて一ちんと
ぬどぐさけうそもべたのの
もくいてもむあぐちまり

ずりさしてちくのうをぶ

ちまめさはらひまき

一ちまめのくらうまきらひふ
乾燕脂（えんじ） 五倍子（ごばいし） すくらぶ
とにしてめるべしまきあと
われるすもびとかりてた
らあさにくもぐるあづ
まくにるもうし

ちらぶにうひうるひまき

一ちごちまあにらひつるひろ
ふたきそのうとあらうあ
どうしうとうたとうさ
そきうするべしまきた

弱くわきうりちかう
のまずべし

あうぶんりまき

一ちまこんぜのうるうづひ
ありとぶめちぶのうち
にごりほどすうるうちろ
りのぶにうるどかるうず
いろばうぶうきのうりぶあ
もほぶとあくのうこかぶ
いありいうあうにしてもあう
ぶうりうるのべ
うずうこのひもぶにるれ
のあうぶぶもうとん青皮（ひうち）

湯とも

とうがらしの皮

生半夏　葱白根一す

山ニンちすりつぶしひらぐ

かぐにもうるさぬようこと

だものひぢりそぐだ

のとうがみぐるべ

ひぢりとぬぐぐ二日

どうふぐるべけるとう

青皮湯　青皮ぬるげく

うぜんぐものよ見べ

ぬもかずとずぐとめ

いしわけるものむべいるみ

一日もゆぐんべ

うぐだまじてのぐたもの

いるむいうまぬいくせ

ものすりめ女ぬうぐん

いーしはとめくもねりもの

おつくもんなりもとと

いうるこれるそまるぐ

かみめるもの

一うぐひぬのちんぐあぐに

うのずかくぬけかけ

ものすり　椹子三ウ　胡桃三ウ

側栢葉十ま　つるあるせ香ら

ひくくとれぐんぐようべ

つゝみ[illegible]

一 うみをぢにてのびくさをれ
わるるあさうら山椒とさけ
よもぎとをたらぢはくさねとろ
えもの日めるべし

うみあうらうる

一 うまれつたうわくろあか
うづくえわくるまあり
草麻子 みすつううとを
ぢのかづえすんぢう
ぢまさげうるたとうづ
すくこ三日しのちうひ
あづくとはくだし

一 [illegible]乃中
[illegible]
あくへらまの蜜とすりつけ
ぢくべくうるとろたと
るのの[illegible]ちくぢのそあ
ぢうのうくあもぢもて
ちうてをくさぢるるう
ずうべし

うるれはあらづすう

一 うるうつのあらくそばうす
いぢくうたえ 輕粉 滑石
杏仁 三のうすりあるをうく

麝香　龍脳

一

ぬりとをしうんどをせうまのみぐ

あせびの事

一 あせばうかもうのようなるもの
を 蜜陀僧とこいろくすり
ぬりべしもしさいあれば
あらうらしかんりうちゆき
あらくとくべしてそうほう
あまもとりじんうめてはは
ゐどものうらをわくだ
こいすしゆうりんをゆうさ
わくるめのむべしくるゆりめと
いろくべあうこをもうぞくけ
ゆあひうらとさうあすくさらの

らぐさものとめてとけびひさ
しくそんぜをみくれて
とひうすとたいとんぐいぞむし
つうぐ素の者ゆにてね
ありあゆうゆ大すうつぐ
ようてたりてわそのうらぐう
目うげ丸ごうにつうらちり
うづくうゆるてもぐ
又ゆ弱んもゆうぬあり

わさぐの事

一 ようぐにる 石綠青 三文
軽粉 ようくすりませうぐ
うくき胞とせんぐうくその胞
うそ弱りそゆうぐくみうるも

ぬきだけとりてぬぐし
あらくぬかあらくぬかのぐ
あつよたそろいたまろくゆ
しゆこ六ちあらごめしぼり
ちりまの日はやもとうし
ゆぐん胡粉（くうれつち）とぬるべし

わらぬくす

一らしどぬとうしてちらごめ
とあくくうぬよとんぶんさし
ろみくとぐ〳〵ちらぶり
らとりうちとのりたとわろ
のうらとろあたたきを
うるゆがりけらとうけて

とぐ〳〵三日ほとあめけ
あらうすり
いかぬくす事
一ほとぬくうる天南星（てんなんせい）
そのまこたしく那（なた）て
弱りとうるまでつけべし

人はうらにふうぬのゆえ
をきて世のとうをうと
とうぬるにかこと乃あ
ふるすうすかうぎぬ
とむさいぐすのうるべ
てのかとぐあうさいしみ
あーうむ（どもやぐむ）
ふうぐひうゆことあるう
ことばのいへうこうく
きてあくうすけとうあさ
ゆてあうゆずとれぐ
ちさとあうえゆうて
りとうもすぐうあ
さうぐすうきうゆこた

おううれぐそのまれぐつう
とあうにまぐをふうぬ乃
中あれぐうそいつうんも
あうべくうこうてうう
すうこれとうあ
ぐも神うゆまぐ
あいうまへうれつむ
ぐーかうとあうあうう
りういうれぐゆうあく
うんへあぐうべーうへ
つとぐすうわうそうげ
ううあせぐそゆこた
こーぐすぐすいさ
みへすうぐあうるうぐ

あるときのひとびとつど
てさくらづゝふるひわ
もとゝあやまりそ身とは
のうべしまもてやさけのむ
まわらべうずまい日く
うゝゆとべしゝあゝくあん
ゝ見に一どそゝしゝく
はれでびあゝどやこの蓑
こゝあゝまい日すべしゝの
ゝとうほどうりすう
さゝて女はりのゝどうげ
ゝひうゝるゝのふ
げとひゝ人乃さの女その
ちゝいうどうりうん

ものゝゝふぐのゝちゝく
とれ荷とけけちしる
のひまざうゝりのる
あゝとゝみうけうあん
おうさんとすきべゝちか
ゝくゝくゝとべゝやうす
枝のまゝにさゝとたべしる
乃あゝとれめべしひまゝ
あゝそうあるむとゝのんゝや
おゝれうあけさのゝ女ゝ
ゝうゝやどそのひまの
ゝりあゝとゝうさしげ
べゝゝけのひゝとうやから
おゝそうゝゝ女はんどゝふる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此書すくなく成ぬれども。多所ごとあり。
おなじくばいはくもん
なれど。ちからそうばうの色。
今の世。まれなるうた
人と見るべし。色いはの
もの。むかしは病なく
とかゆもがもし。身れや
なむよいうてうの通り
うむきしきりなりて病むと
ものしてうおそろかなるも。
人をいうべかりしもとの色。
醫師もまきんふらまし

ゆゑとはばかるもの。其
子の病うしてうしてて。
ゆのまし手おさしとえた。
他ゆるめる。身後といひ
人をも毎のやむうてう
醫にはつるべ。おろ病
をいなおるかのちれ
世近の病とするの母
の病とくるくる醫もなり
名家の病ほうれる初めも
此外に五人まくばかり
醫と大よりくいぜとばゆ。
はれよくるくる。今のあ
べきれ。ぞかんつ。ぞ

ひとへにこゝろとどまりて夜
乃露と雨ばかりぞ
ふるさとびとのつゆ
身のうらみとわかましし
きりぎす

播州上津荘
作者　幡　玄春

葬演

夏の般乃むし殿へ園の首
くむしくと漂行的宮永
へ正徳の元文へ享保の
宝永の先師早世くもゞよ
三十余乃あの世すぐし外

ひとりのれで方の事ふうさ
婦人のさまけ和とけこしたん
とこゝ郎建立ふとも採ふ
郎乃乃とけく黄泉乃おも
ひ我師と世のたん仏書と
づれ我と世さうへつるる見て
くあれ出どうくたさいれどそ
我どうこゝろあのうくとりふ
みりどけくべ先師の志ごづ
人わくくと春今々山吹
さく仏師の周廻よ書也で祈と
よむひもなぐあのうあぐ
の出たるづくあまうあぐ

くせをぶんこびくいこ
ゝわどうゝめやゝゝと
ゝあるべけれと侍ゝるの
ぜゝ板行めゝゝせう
もろむる

播氏玄春門人
摂陽庸醫　鈴木秀見

開板人　江戸日本橋貳丁目　小川彦九郎

于時元文四巳未歳
五月吉祥日

西園寺藏書